

KSKQ あかねニュース No.62

川西市障害者共働作業所あかね

〒666-0017 川西市火打1-5-19

Tel&Fax 072-755-4101

ホームページ akanesan.net

E-mail: rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp

人を「衝き動かす」もの

去る八月九日の夜、兵庫県全域

に激しい雨が降りましたが、中でも佐用町に降った雨は、ただならぬものでした。時間当たり八〇ミリ前後の雨が、二時間にわたって全く切れ目無く降り続き、気象情報、西から東に向かって飛び去る雨雲レーダーの、最も強い雨を示す赤色が、なぜか佐用の上空から離れませんでした。町内を流れる三つの一級河川が氾濫し、二十名もの死者・行方不明者が出たとの報道は、まだ記憶に新しいところです。

私はシニア自然大学というNPOを通じて、佐用町にある町営の昆虫館と少しばかり関わりがあるので、詳細な被害状況の情報

に注目していました。

案の定、昆虫館も千種川の支流のすぐ横に立っているため川の氾濫をまともに被り、上流からの土砂・流木も押し寄せ、ひどいことになっているらしい、という第一報が入ってきました。

NPOの中枢幹部や被災地に比較的近い地域に住んでいる会員たちは矢も楯もたまず、車を駆って昆虫館を目指しました。

前の道路は川になっていて、流木の山。舗装道路はいたるところで抉り取られていました。

苦勞して昆虫館に入ると、上流側は土砂の堆積で半分以上埋まり、館内は床下浸水による損傷が激しいものの、昆虫標本だけは、

なんとか無事でした。

第二報がもたらされると、勇気づけられた仲間たちは翌日から次々と現地入りし、復旧活動に励みましたが、重機も無い中での人材での作業はたちまち限界に突き当たります。

『よし、こうなったら、人海戦術だ！』

NPOの幹部で結成した「佐用町昆虫館水害復旧対策本部」の号令で八月二十三日、現地に集結したボランティアは、NPO会員をはじめ地域の自然保護団体など総勢四十七名。

館内大清掃、館外溝の堆積土砂撤去と土嚢積みなど、レーダーの確な指示のもと、一気呵成の復旧作業が進みました。

一部のメンバーは、昆虫館に程近い民家やお寺(瑠璃寺というこの地域の名刹)の被災復旧の手伝いに。高齢の夫妻が必死にやって

毎日発行

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

も遅々として進まなかった浸水汚泥の清掃も瞬時に片付き、夫妻が大感激されたの
は言うまでもありません。

実は私もその口、シニア自然大学の数名に混じってボランティア活動に参加したのですが、ひときわ印象に残ったのは、滋賀県から駆けつけてくれた若い男女十四名のグループでした。

皆滋賀県の防災担当職員で、今回は特にK知事の特命があったとか。『私も行きたいのだけれど、皆に止められてしまうから、せめて私の思いをこの人らに託します。』という暖かいメッセージも添えられて・・・

彼らの統制のとれた順序だった手際の良い集団行動は、周りの皆が見とれるほどでした。土囊の作り方、積み方なども教えてもらい、共同作業は交流会の場でもありました。

「経験を積む必要があるんです。単なる訓練では得られない、実際の災害復旧に携わりながらノーハウを蓄積していったら、滋賀県内で起こった災害の対応時に、それらを

生かしていければ。」と職員の一人在謙に語ってくれました。

今回の災害に際し、人々はそれぞれの思いを胸に、衝き動かされるようにボランティア活動に走り出しました。それは決して「頼まれたので助けに行く」といった受身の動機ではなく、言葉の真の意味での「ボランティア精神」(たいへんだ、少しでも役に立ちたい!)という)に基づいた能動的なアクションであったと思います。

何が彼らをそうさせたのか?・・・



地震・火事・水害といった自然災害の恐ろしさ、衝撃的な映像報道を目の当たりにして、じっとしていられない気持ちに駆り立てられたのでしょうか。

私たちが支援行動へと衝き動かすきっかけが、心臓をわしづかみにするような衝撃報道にあるとするならば、そのようなインパクトこそ発信していかないが、同情と関心を得てしかるべき事象は、日常生活の至るところに存在しています。

障害者・・・特に外からはその「程度」がわかりにくいとされる知的障害者の問題もその一つです。

彼らに、もし、インパクトに富んだ発信が出来るのであれば?・・・

そうだ、一庫マラソンがあります。

ここ数年、あかねのメンバーは毎年数名、伴走ヘルパーに守られながら、5キロを走っています。彼らの必死の頑張り、心を衝き動かされた沿道の観戦客の「がんばれー」の声援に、今度は走っている彼らが心を衝き動かされ、何倍もの力を得てゴールへと向かうのです。今年も秋のイベント・シーズンが近づきました。「あかね元気寄席」「あかねまつり」そして一庫マラソンでのメンバー達の走りも見届けてやってください。

芳川 雅美

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価 一〇〇円

福祉のチエンジ！ 「フレキシブル支援センター」

アメリカのオバマ大統領の『チェンジ』にアメリカ国民、いや世界中の多くの人々が関心を示している。

我が日本も、どうにもならない閉塞感から脱出したくて政治も変わるうとしていないか？！

世の中がいろいろと変わるたびに、障害を持つ人たちは、制度が変わり振り回されてきた。『措置』の時代から『支援費制度』に変わり、障害者の選択権が認められたかと思えば、今度は『障害者自立支援法』・人間として当たり前前に生きる権利すら守られない世の中は、豊かな社会とは言えない・・・と常々思ってきた。

高度経済成長の時代ですら共に生きることを大声で主張しなければならなかった。

二十年前、障害者の「拠点」として「あかねほうす」を立ち上げ、当時、これからの時代は高齢化社会が日本にも訪れるので、弱者の問題は共に理解されると大いに期待した。

しかし、障害者問題は高齢化の影に隠れた。そして最近また、障害者自立支援法の問題が噴出し、あかねのような小さな作業所の人たちにも大きな影響を与えている。「地域の中で人間らしく当たり前前に生きる」という基本的な人権をどう守ればいいのか・・・

この夏休みを利用して、北海道釧路市にある『冬月荘』という福祉の拠点を見学してきた。

そこには、北海道電力の社員寮あとを、

利用して赤ちゃんから小学生・中学生・ひきこもりの男性。家族とうまく生活できない若年性認知症の人・家族から暴力を受けてここにひきとられている人・・・

実にさまざまな『弱者』といわれる人々が集まって、楽しく生活しているところであつた。

日本で初めて認可されたというあたらしい型の福祉ホーム「フレキシブル支援センター」という真新しい言葉の支援が北海道で誕生しているのである。

タテ割り・分割の福祉ではなく、社会的弱者といわれる「高齢化」「少子化」「障害者」「家庭内暴力」「非正規雇用」「貧困」「外国人」の問題などなど、総合して考え取り組む時代に入ったのではないだろうか？

それぞれがどう自立すればよいのか？ そのためには行政・地域社会の支援はどうあるべきか？

自分たちだけが良ければ良い・・・では通用しない。地域の中のある問題に耳を傾け、弱者の問題解決に地域全体一人一人

が力を合わせて取り組んでいける社会を目指したいものである。

介護保険制度が導入されて、ヘルパーさんたちが活躍されるようになり、大変助けられるお年寄りもたくさんいらつしやる。

しかし、一人暮らしの老人はそのことにより、ますます外出する機会を失ったという。

外出しなくても家に来てくださるから。

近所の人と話す機会を失い、次第に人との関係が薄れてしまったという。

小さい子供を抱えたお母さんたち、毎日の子育てに戸惑いながらも、同じような悩みを抱える人たちとの関係がなく孤立しているのではないのでしょうか？

地域の中で気軽に立ち寄っておしゃべりする場がない。



老人は老人だけ、子供は塾に友達を求め、若者はパソコンにひきこもり、そんな環境の中で暴力が生まれ、ますます外との関係を断つ。障害者は単純に施設と家庭との往復生活・・・

二十年前、障害者も地域の中で共に生きることを目指して作った拠点・・・

- ① あかねはうす
- ② 老人福祉センター内の喫茶あかね
- ③ あかねの夢(昼は定食・夜は居酒屋)
- ④ 共働作業所あかね

障害者と地域の方々をつなげるために四つの拠点ができた。

老人と出会い、御酒処で元気な若者やお父さんたちと出会い、あかねはうすでは往時、子供連れのお母さんたちが集ってきてPTAの話・子供会の話・家族のこと・友達のこと・・・などなど地域の人たちの拠点となった。

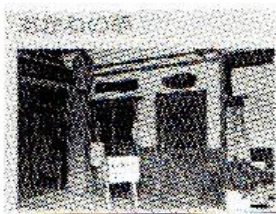
作業所ができて障害者は小中学校・幼保へ行商に立ち働いた。

それから二十年経つと、当時赤ちゃんだった子も立派な大人に成長し、少しずつ、

あかねの存在感もうすれてしまった。今では、単なるお弁当屋さんくらいのも解になってしまったのだろうか。

しかし、いまでも四か所のあかねで出会ったたくさんの人々に支えられている。まさに川西版フレキシブル支援センターではないか！

もう一度原点に戻って、地域の方々と共に、誰でもが集ってきて楽しく語らう場所作りを提案していきたい。



富田 啓子

毎日発行 一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価 定価 一〇〇円

夏休み

いざ海へ!

この夏、作業所では、八月十一日から十八日まで、夏休みをとらせていただきました。休みの期間中、メンバーたちは、家族と田舎に帰ったり、旅行に行ったり、家でんびりしたり、近場で遊んだりとそれぞれ自分なりの休みを過ごしていたようです。

そんな中、何人かのメンバーたちと、いつもガイドヘルパーを利用してくださっている方や子供さん、そしてヘルパーさん、職員とで日帰り海水浴に行きました。

JR川西池田駅に集合し2台の車を連ねて向かうは淡路島。

夏らしい日がほとんどなかった今年、初めてといってもいいくらいの快晴で絶好の海日和。みんな♪行きの車からワクワクドキドキ、こんな日には流れる汗も妙に嬉しくって自然と会話も弾みます。

明石海峡大橋から海が見えた時はわあ

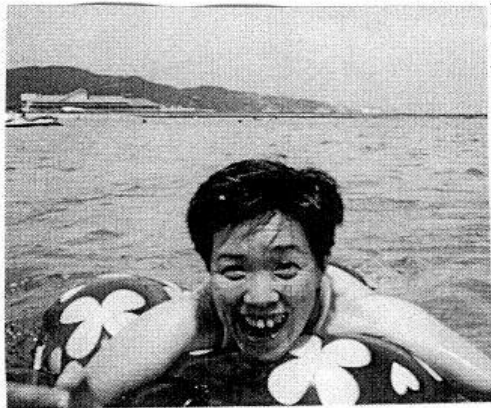
つと車内に歓声が。サービスイリアで休憩ソフトクリームを食べたりしてすっかり旅行気分。

海に着くと、海の家を借り、日陰を確保

して、着替えを済ますと、いざ海へ!

みんな水を掛け合ったり、「あそこまで競争だ」と泳いだり、一つの浮き輪に何人かできがみつき、落ちそうになりながら足の届かないところまで行ってみたり。

波打ち際で、海に入るのをためらっていた人も、みんなに促されて、最後には腰まで浸かっていました。聞くと、ほとんどの人が子供の時以来の海水浴らしい。



メンバーも職員も普段の仕事では見られないような笑顔であふれていて、浮き輪にぶら下りながら、とっても幸せな気持ちでした。

お昼は海の家で思い思いのものを食べ、恒例のスイカ割りで大盛り上がり。

日帰りで、十分、海を満喫できました。

帰りの車中では、眠ってしまう人も。

家に帰るとふらふらで、足元がおぼつかないメンバーもいたそうで、心地よい疲れと共にみんな家に帰りました。

あかねではこのように、ガイドヘルパー制度を利用して、何人かのメンバーと一緒に出かけたり、旅行をしたり、また一人ずつ映画や買い物など、希望されるところに出かけたりして、作業所が休みの週末を楽しんでいます。利用される方の、より多彩な要望にこたえ、また、いろんな人と新たな出会いが出来るようヘルパーを募集しています。また一人暮らしをしているメンバーの自立を支えて頂くお泊りヘルパーさんも募集中です。どうぞお問い合わせを

岡田 小月

毎日発行

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価 定価 一〇〇円

地域パートナー紹介

その⑧

六甲からと村の

愉快的村民たち

「六甲からと村」? そんな村あったかなあ
 ・ ・ ・ ですって???

神戸市北区唐櫃台(からとだい)・・・
 自然に囲まれた良い環境の住宅地です。そ
 の一角に「終の棲家」を構える武田梧郎さ
 んが、農園を借りている地主さんから、二
 十年以上も放置された近くの里山の管理・
 再生を任せられました。

シニア自然大学時代の仲間を募って活
 動を始めたのが四年半ほど前、その名も
 「六甲からと村」

集まった常連メンバー(村民?)は十七名
 武田さんは任期無期限の一代村長です。助
 役兼二代目収入役は鈴木康人さん。村民の
 平均年齢は六十歳台の後半、早い話が・

高齢者集団!

ところがこの村民たちは、すこぶる元
 気。樹や竹を伐り雑草を刈り、階段や橋や
 物置や炭焼き窯を作りピオトープ(生物が
 自生できる水場)を創り、荒廃した山里を
 みるみる人間に身近な自然空間に蘇らせ
 ます。累計作業回数は百七十回を超え、手
 作り窯で焼かれた竹炭は四十回以上の経
 験に支えられて品質抜群です。

村民たちは毎週水曜日、十時ごろから車
 で三々五々集まってきました。コーヒータイ
 ムを楽しんだのち作業へ。



個々人の特技を生かした役割分担での
 作業。注意を要する危険な作業は全員総が
 かりで・コンビネーションコンプレーも見事
 です。

ランチブレイクは愉快的歓談の場。ゆっ
 くり食べて話して発散したのち、また午後
 の作業が三時頃まで続きます。

村民の一人が、あかねのスタッフ(非常
 勤)でもあることから、毎年十一月初めの
 「あかねまつり」に、産地直送?の竹炭販
 売や、自然の素材(竹・木、ドングリ等)
 を使った工作の実演付き販売のために、村
 を挙げてやって来てくれるようになって
 もう四年。

炭や工作品の売り上げは全額あかねに
 寄付して下さっています。
 有難いことです。

今年も間もなくその日が!

あかねのメンバー・スタッフ一同
 村民のみなさんとの再会を楽しみにして
 います。ちなみに、今年にあかねまつりは
 十一月一日(H)です。よろしくお願いい
 たします。

芳川 雅美

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価 一〇〇円

夏祭り奮闘記

「あかんかあ!」「大雨?」「中止やなあ」朝から天気予報とにらめっこ。あかねの稼ぎ時の夏祭り月間。土日の各地域、メンバー・スタッフ・多くのボランティア総動員でのテキヤ稼業。お願いする前から準備万端、気力十分のボランティアさん。ところが、例年になく異常な天候・新型インフルエンザに戸惑い隠せず。天候・インフルエンザ対策などで辞退・中止で例年の半分くらいの出店となりました。

でも、そこでメゲナイのが、あかねのみんな。「残りの出店で倍稼げ!」とばかりに、気持改め全力投球。

まさか?の、一日の最高売り上げ大幅更新続出。無事売れた喜びと、今までにないバタバタに皆、苦笑い。

皆さん、本当にお疲れ様でした。

「あかね焼き買いに来たでえ、うまいもんな」「唐揚げまだ、ある〜」などと毎年お客として店を覗きに来てくださる方も多数で、本当に支えられました。渡辺 誠

2010年版 あかねカレンダー 出来ました!

予 約 注 文 申 込 書

毎年この頃になると、皆さまには無理を言ってあかねカレンダーの販売にご協力頂いています。あらためて、ありがとうございます。地域で自立を目指すあかねにとって大きな運営資金づくりの事業となっています。

さて、今年のカレンダー、旅・フォトアーティストの中川さんの写真を使わせていただいたの五作目となります。そして中川さんのこのシリーズも今回で最後(休止)になります。それだけに、世界各地の傑作風景写真を選び構成しました。

この不景気な世の中、近年、毎年、販売には苦戦しています。しかし、景気・不景気にかかわらず支援してくださる皆さんの暖かい思いに応えるべく頑張りたいと思っています。

一本 1000 円

送料 200 円(何本

でもどこでも一律)

お名前

()本

ご住所

お知り合いにプレゼントされる場合は、その方の氏名住所等をメモしてください。こちらからお送りします。

このページを切り取ってファックスしてください! もちろん、お電話でも、メールでもお手紙でも、お申込み出来ます。 **共働作業所あかね TEL/FAX072-755-4101**

お出合い情報 ~あかね行事へのお誘い~

- ① イモ掘りツアー・・・秋恒例！奈良天理の山里（中辻さん宅）へさつまいも掘りと、パーベキュー、山歩き散策など。10月4日（日）
08：30JR川西池田駅集合
- ② あかね元気寄席・・・三回目になりました。林家染二さん他 10月25日（日）
14：00～川西市商工会館にて 入場料1500円
- ③ あかねまつり・・・例年11月3日に行っていましたが、今年は11月1日（日）！
（作業所前駐車場にて） バザー・フリマ・模擬店・音楽など一口楽しめます。
- ④ 一庫マラソン出店とメンバー激走・・・11月15日（日）お手伝いもよろしくです。

毎日発行

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

寄付金・カンパ・助成金 ご報告とお礼

(7・8月分)

高橋 ミチエ様
横薮 明美様
福永 隆子様
津田 明宏様

水泳友の会様

ありがとうございました。

もったいない！地域の拠点

緑台四丁目に朝日新聞販売店（ASA）さんから「好きに使っていいよ」といってくださったっている建物・部屋があります。「これはいい」ということで、あかね商品やリサイクル品の販売、そして地域の方が気楽にくつろげる場所として、あかねの拠点として使わせていただこう。となり、昨年一時期、閉店しましたが、メンバーと共に、はりつくスタッフ不足などの理由で、その後、長らく今に至るまで閉店休業になっています。看板だけがさびしく貼りつ

ている状態をご覧になった方もおられると思います。

あかねの力不足といってしまうえばそれまでですが、もったいないはなしです。

話はかわって、数年前から、能勢電鉄の平野販売店前であかねが、弁当やあかね商品の販売を毎週・月・水・金の三日間店出ししているのを目にした方も多とおもいます。これは、能勢電鉄さんの好意で実現したのですが、今や定着しメンバーの働き場としても、地域の皆さん方にもかなり周知されたものとなっています。

この駅売りは、以前から野村さん、そして最近、池上さんというボランティアさんにより成り立ち、継続されています。

私たちの活動は、ボランティアさんの力がなくては成り立たないものです。折を見ては募集をかせせていただいています。が具体性（何を、いつ、どのように、お手伝いしてほしいのか）の発信に欠けていました。緑台の拠点の開店、興味のある方、お気軽に、ご一報ください。

編集後記にかえて

内海

頒価 定価 一〇〇円